

夏休み経済教室 大阪教室 1 日目の記録

日時 2026 年 8 月 12 日（水） 9：30～16：00

場所 大阪証券取引所

参加者 定員 100 名（申込締切前に定員に達した）

<1 コマ目> 講演「BASIC 株式会社と証券市場の関わり」

・斎藤史貴様（東京証券取引所 金融リテラシーサポート部 課長）より、直接金融と間接金融、株式会社制度とその特徴、株主と企業のステークホルダー関係、株式投資の魅力とリスク・注意点、証券市場における発行市場・流通市場の違い、証券取引所の役割、株価変動要因など、株式会社と証券市場の基本的な仕組みについて幅広く解説いただいた。

・質疑では、「現在、金利が上昇している一方で、景気はそこまで良くないのではないか」といった金利と景気に関する質問や、企業が株式市場に上場する際の審査の具体的な流れなどについて質問があり、講師から解説いただいた。

<2 コマ目> 講演「生成 AI 時代に必要な能力を経済学で考える：代替か補完か」

・大竹文雄先生（大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）特任教授）より、生成 AI の普及によって人間の仕事がどのように変化していくのかについて、経済学的な視点からご教示いただいた。

・AI の普及が必ずしも社会全体の大幅な生産性向上に直結するとは限らないことに加え、AI によって代替される仕事がある一方で、最終的な決断をしたり、相手の意図を読み取ったりすることなど、人間だからこそ担える役割があることが示された。今後は、人間の仕事が単純に AI に置き換えられるのではなく、AI による「代替」と人間との「補完」の双方が進んでいくという観点から、AI 時代に求められる能力について解説いただいた。

・質疑では、日本経済が十分な成長を実現できていない要因について質問があり、経済学的な視点から応答いただいた。

<3 コマ目> 講演「生成 AI 時代の授業デザイン—授業作りのどこで、どう使う—」

・鍋島史一先生（教育実践研究オフィス F 代表）より、生成 AI を学校現場における授業づくりにどのように活用することができるのかについて、具体的な方法をご教示いただいた。

・生成 AI を単に生徒が利用するツールとして捉えるだけでなく、教師が授業を設計・改善するためのツールとして活用することの可能性が示された。例えば、授業前に生徒がどのような点でつまづく可能性があるかを AI を用いて予測したり、実践した授業の効果を検証したりするなど、授業づくりのさまざまな場面における活用方法が紹介された。学校現場の教員が日々の授業改善に AI を生かすための具体的な示唆に富む内容であった。

<4 コマ目> 講演「制度信託の思想を生かす経済教育」と質疑

・松島齊先生（東京大学国際高等研究所東京カレッジ特任教授）より、制度信託の考え方を踏まえながら、AI や金融と人間の意思決定との関係についてご教示いただいた。

・AI も金融も、人間や社会にとって有用な技術・制度である一方、「役に立つこと」と「それ自体に物事を決めさせてよいこと」とは別の問題であることが示された。教育における AI 利用についても、AI を人間の判断を支援するために活用することと、AI そのものに意思決定を委ねることとは区別して考える必要があり、後者については意思決定の正統性という観点から検討する必要があることが指摘された。

・質疑では、制度信託の考え方を教育にどのように応用することができるかについて質問があり、教育における制度や意思決

定のあり方をめぐって意見交換が行われた。

・最後に、進行役の大塚から、今回の講演を通じて共通して考えられることとして、「役に立つこと」と「それに物事を決めさせてよいこと」とは別であること、この問題は AI と教育の関係だけでなく、経済や金融について考える際にも共通する重要な視点ではないかとの総括があり終了した。

補足：各報告者の所属は省略。プログラムを参照。資料を後日掲載予定。（記録と文責：大塚）